

# 地域懇談会でいただいたご意見を紹介します

2月1日(土)に町長と話そう！(令和元年度地域懇談会)を開催しました。

今年度は「2025年にあなたは、大町町はどうなっている?」と題し、団塊の世代が後期高齢者となる2025年、地域の高齢化や単身高齢者世帯の増加など、多様化する地域課題について意見交換をしました。いただいたご意見を抜粋してご紹介します。



**参加者** 高齢化を悲観するのではなく、それぞれの地域に高齢者の活躍の場、やりがいの場所をお互いで作ったらどうかと思う。

地域には、「まだもう少し何かできる」と思っている方は多い。例えば、お茶を飲みながら何かしようとして軽い感じで集まったメンバーが、自分たちの地域を歩いてみることで、「ごみ拾いに取り組んだり、道具を持ち寄ればちょっと危ないところなど修理できるかもしれない。そんなグループができれば、地域の環境がもっと良くなるのではないかと。

ぜひ、そのような場面に持っている仕掛けや仕組みがあるといい。

**町回答** 住民自治の理想形だと思う。また、大町町は、元気な高齢者が多いので期待できる。町の方から押し付けることのないよう、ぜひ、地域のほうからも住民の皆さんに発信していただき、一緒にまちづくりを進めていただきたい。

**参加者** 2025年にちょうど75歳

になるが、『2025年問題』と聞くと肩身の狭い思いがする。

社会保障費が増加するのは理解できるが、体力にはまだ余力があり、余生を楽しみたいと考える高齢者もたくさんいると思う。是非、高齢者もみんなが楽しめる場づくりの仲間に入れてほしい。

**参加者** 民生委員さんの見守り対象として、65歳以上を高齢者とひとくくりにしないでほしい。杓子定規に年齢を区切るのではなく、もっと柔軟にすれば民生委員の負担も減ると思う。

**町回答** 民生委員に限らず、地域の皆さんにはさまざまな役割(役割)を行政からお願ひしており、大変なご苦労をおかけしている現状がある。今後、担っていただく役割のすみ分けとボリュームを調整していきたい。

また、65歳になったすべての人が助けを必要としているわけではない。まだまだ元気で見守り対象でないという元気な方が、少し助けを必要とされる方を支える社会が求められている。こういった地域づくりを進めていきたいと思っているので、ぜひ、協力をお願いしたい。



**参加者** 男性の高齢者がどうしても引きこもりがちになってしまつ。隣近所など小さな単位(範囲)でサロンを開けるような仕組みを考えてほしい。また、さまざまなボランティア団体が後継者が不足している。後継者を育てる仕組みはないか。

**町回答** サロンについては、地域の中で「やってみよう」という声があれば、町としてもサポートする。ボランティアの後継者不足については、いろいろなところで聞く。何をおこなったら解消するところ。明確な答えは見当たらないが、町としてもサポートをしていくので、地域の中での啓発も重要な取り組みと考える。

問合せ先

秘書広報室 ☎95-16616